續勝栗毛三編

五上

へ13
3286
23

本清

門へ13
號3286
卷23

木曽街道續膝栗毛三編叙

秘密毛の栗屋を脱だ

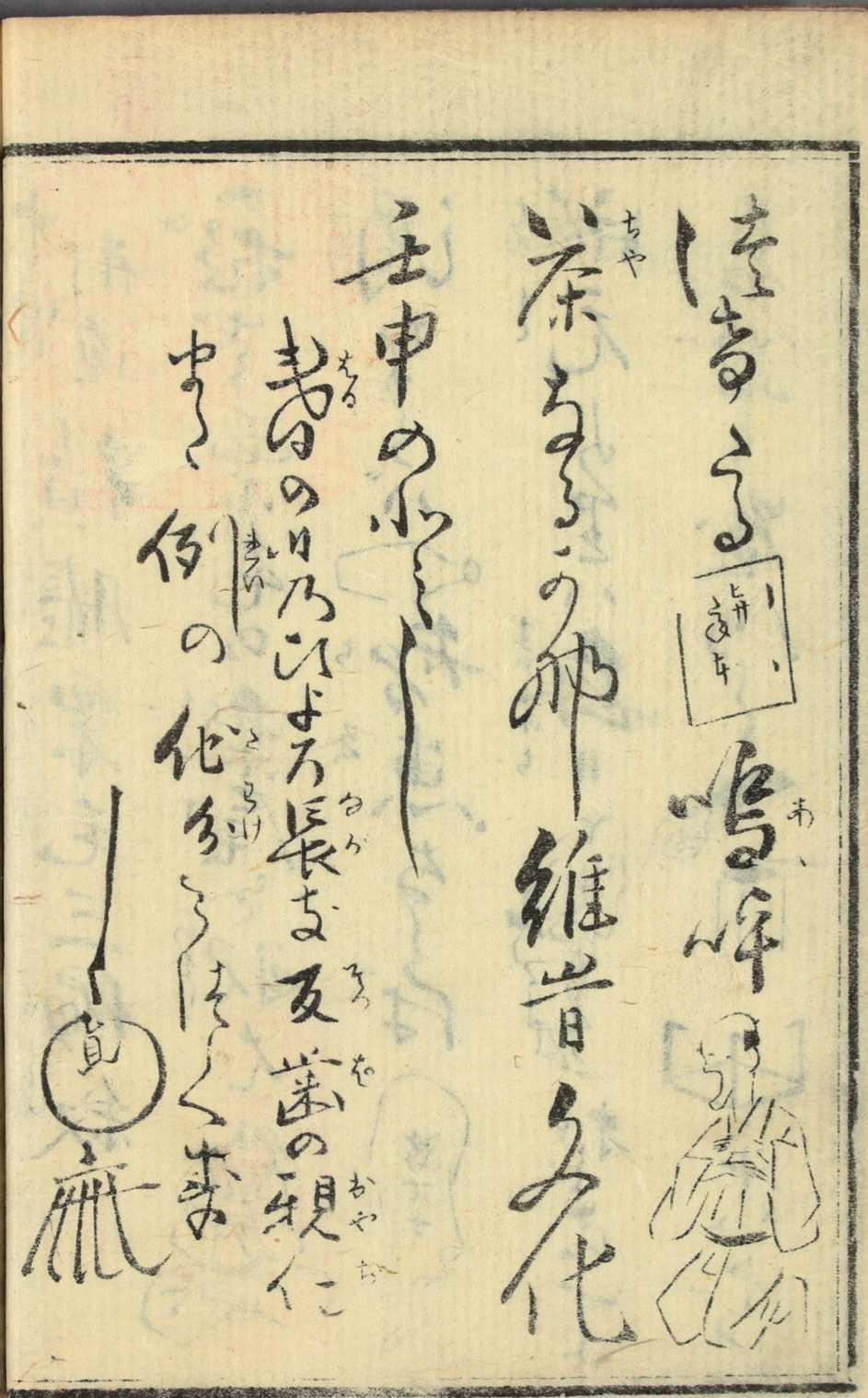
湯ならバ知恵ちるべ

版元よりハ毎月

出来次第

さいぐ

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈



○彌次郎兵衛喜多八なるもの。東都を出て十とせあまり。いまゝ帰らざる。粥食中山道ふのうどちゝ。むかしの後三篇の編しんども。序文作者が。枕を敷てさを陰しとゝ食言の皮去来上阪乃道ゝ。

ノー草津海の大騒動。蓋乃白鳥子が新をふ一。遠面しく毋盛の笑雅。あひしらうを書外。番場の茶屋のおちゝ。解ノ口。

作る芝居。國性爺の虎と狐の間遠

[illegible]の[illegible]ふ氏書の[illegible]向こと。
[illegible]ふいろうてん。あるぞぐく。遠く故郷ふ
[illegible]

○此[illegible]へ[illegible]り[illegible]ろう。中国筋摂[illegible]名所巡の
おもむき。若さとぐき順るれども。板えの[illegible]こそ
まろ[illegible]てきく。[illegible]水[illegible]踏とおち陸さの。[illegible]郷[illegible]
去年さんぬ[illegible]上阪の刻。摂州めぐりせしくの
[illegible]きびぜ紀行ハ別ふ表題をかくあらんを
[illegible]いのり[illegible]ぜ書ハ大津[illegible]ふ[illegible]ます。

木曾街道續膝栗毛三編上巻

東都　十返舎一九著

笑ひの中ふ改を研といひぐつと昔のこいやりに
れさすれる浦代のありかくさそ。一腰の服指さへ抜ぬ
ふうふと陸[illegible]とりひ。生碎も本性迷ぐ[illegible]
せざれば往来の乞食跳ものふあ[illegible]ひもの
太道よあげおさうんそ。る鼠くく世の中。千早振
神代ら伝へつけ。人寸ぜ伝も。小豆飯ふかくて上れば

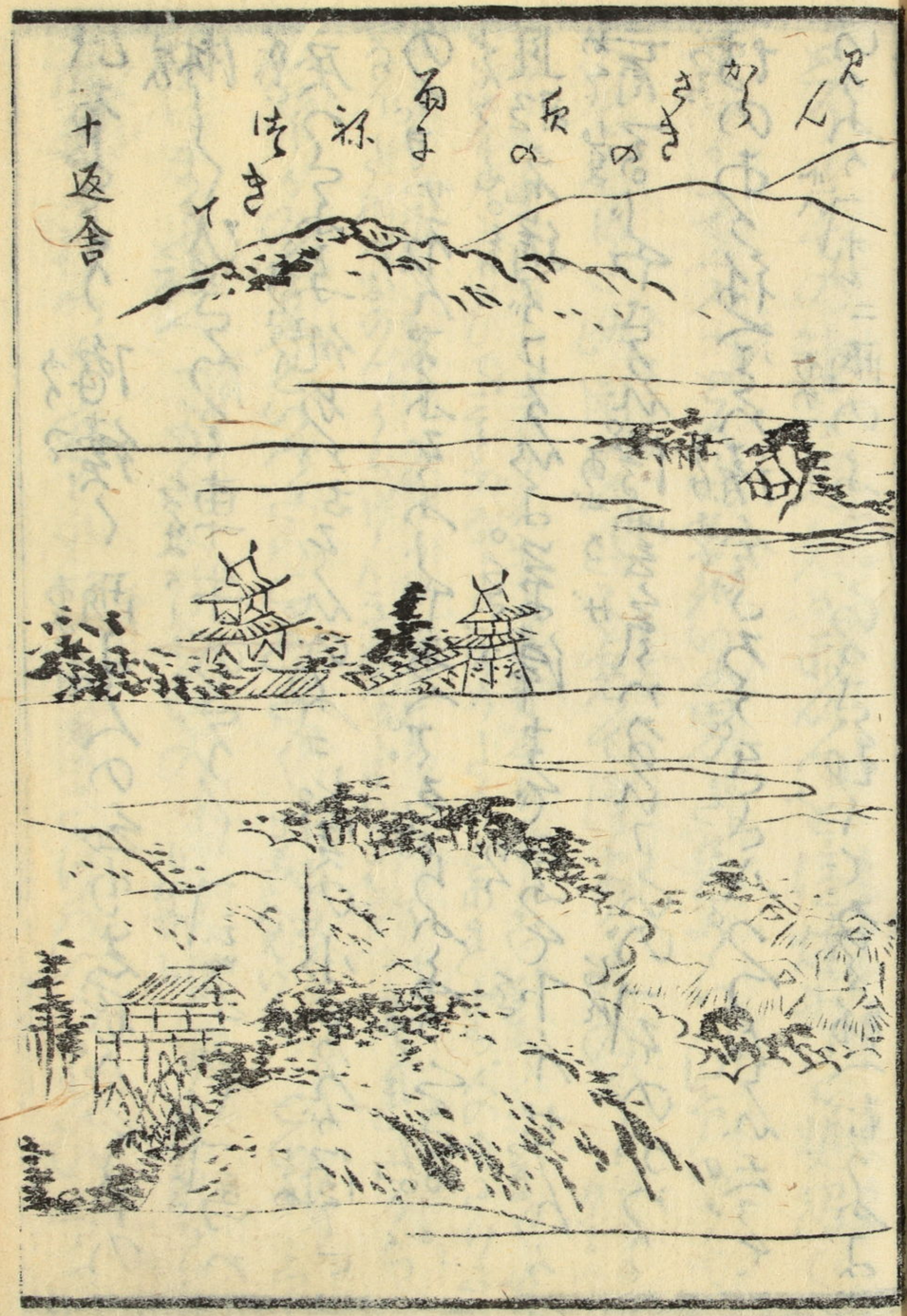
とてものとよ砂積りけてと。氏神中紅の「吉打」のひ。
漣や湖水をつる山王の神輿さへ。血とんさふ川端
ふく。熊坂が物見の松も名のみ殘りて。昔の赤玉
馬の糞ふも妙薬なりと。ほうもるもとよりて
考つけるへのこ張の長旗よ。冥戒の山笛しらく
朝めしるる本曾街道を。ぜ。今や東海道
さんの。ふ江戸を。ぜへ。摂州路をよりさぐて
尼が濱うら。神崎の呂て紙さつて山寄街道を

伏見くよ寿家。おくまでぐら紙を出してやい上
札のさるる追分町ふぞ生ようらる
ぬちるへ宮ぶまのまうりをあらうでをあらうしたれば今年八仙菊より
ぶりうめぐりのところ他者ありふとまぶ能野くらくぶる
ぬるうんざうと式部名よあふ大津絵の名ぬ。こそや
外十乗盤ぶど。家ぶよあれるあんさう
事勢をこん世よあらぐて高内中
時よ大津の浜ゆのあるぐ
えへ京と伏見との追分ふて。往来張れ所ぶんど

近江八景

坂の本の紅葉

石山の秋月



堅田の落雁

粟津の晴嵐

唐崎の夜雨

十返舎

ひとりごとのように俗續く兩よりの人のこゝろあるものを
林しくぴきうつく車牛のうつくしきこゝろ馬の
戻つてふぢ紙めいおそんのこゝろ笑の小さんが聞
のうぎさわんやふそのややあくで云らかあいこゝろ
且紅ゑ縞がつるんよ。まお津きで笑てくんせんこ
肩ぬるぐやさうん。浮雲気いるのひとらの「そのかわり
はのあろ後くこゝ清今ぐこゝろ。さこハぐつぐんこゝで
いこふ「ホル」二兩のふるせいっさもくてゐる後くむふよ

とりこゝその鮎がんそゐ。ぽあふと陰燈あーて。燈籠で
やらしこゝの「陰」とんぐこゝ紙いふ男ぐこゝろ江戸ちんで
あてんめこ遊用めつこゝよ。ものいこゝ
ありあまるやどこゝつんこゝ用ものあくぐ。こゝちくこゝまぐの
さいくんこゝあひてこゝ文ゐくとゐるこゝあまこどもくんのあこゝけふ
ゐくくこゝあてんあーこゝちぐくのゆこゝろひくく「そ生ぐこゝら
ゐりくこゝれがおのぐこゝらげんこゝもゐるこゝろ行れて
おいこゝがのまふとこゝつこゝこゝまぐこゝく「ト」あまぐけ
やへこゝる「ト」こゝのふこゝ
おこゝまこゝ後く「陰」よくこゝあこゝの「あまぐけ」の「アイサ」こゝろく
陽義ぐむこゝのこゝん「あまこゝけいこゝ」ぐんいこゝら

まゑもと八文ぢやうんの「いろぢんうんるせく」ぽ八
ぢめくとずまうづくのまゑ「ぢ」おそれるとゑいふぢおいらア
いやぢぽおめくひとりでゆらかるせく「ぢ」それいあうがうこの
トあまさうのちやうんとゑやうの「ぢ」ゆうくうでうめくく。
ゆよりくてのこるがらう「ぢ」ゆうくうでうめくく。
ゆよろうさんぢおめくの正ひ小ぢんまうとぢのうくいく
兼者徳ぢおそこよゆうわおめくの正の子供ぢれう「ぢ」イ
ゆこの孫どもぢやうんる「ぢ」おめく息子とあがわうゆこう
「ぢ」さうぢや孫ぢゆるさうんむとこもあるぢやあうぢんる

「ぢ」りりャ正ぢがおわくてぢおめく太体のようぢゆうこ
ゆこくくよこうしてゆよいこうゆど入ゆこと「ぢ」アイどゆこ。
三接ゑと口接食ゆふてゆ喰ゆもんうこる「ぢ」そこゆ
ぢろう。この地代いこう生ゆこと「ぢ」アイ年頃ぢ一年ゆ
「ぢ」百円こうぢ「ぢ」りりャアゑ義句ぢうゑ孫「ぢ」イャ盃と
「ぢ」こと二季ぢやうん「ぢ」そ五ゑゆうりとこうゆぢ。
こうゑそこの二季ゆ間遠ぢく動定ぢ出来ゆこう
「ぢ」アイ出来ゆこもゆ「ぢ」合点ぢいう祝ぐ。万一保ぢると

地ごてごぶ承知う稼八〻〻ろのんの世ろふもるる稼く
て〻紙。ちめ〻その地ら〻ぢゃあるあ〻。たんさ八文乃
甘酒で。家内中の店ちしすでまるとんゆまとん
ものぢゃいろふぢゃ稼く〻稼おりもく〻たぢこも呑
てんぢさろたうちめうて必ぶつう稼くぢろさんいうぢく
くんるせく八アイさろうてもろんろいるドドしくいく
たぢこぢ。さ〻八母めく母も呑稼く〻。ゃアいろ中せう
八コレ甘酒の稼が世〻文呂さろんろいる稼世文八呂の

ろぢろの代ふさ引く八そふんなろふこぢく
まるトてと注出て大津のちを行きぎさるる淀ふ江えんく
ろて八京のひと目ろろるけいちろく。おエるを陸
ふのぐ

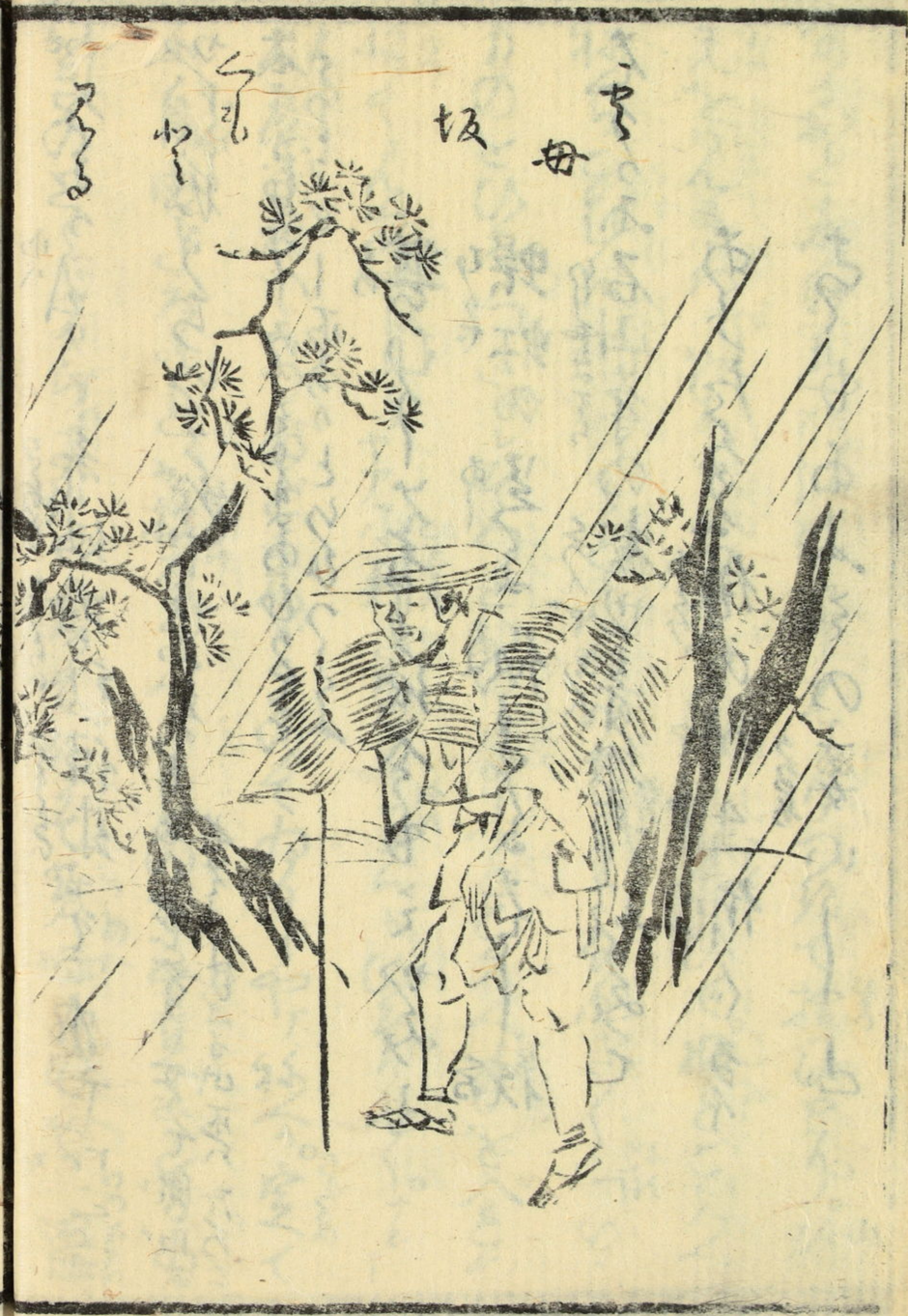
風のもろかれるしまる琵琶の湖
ちろ八京の外の一景

かくて往所の江城下を打ろる時十二三案だろんの
京の絵書大をけーうけるぐらかけ生そもくひゆうる。
のゆら紙ふ包ぞーめ紙ぞいちとーるふかりとし

なのるおとこをけまべぼ法師をかりて捨ひとり。跡
先をこんまつ〳〵だちまちあつこうと笑ひて。板ところく
移ぢこむ紙ぽ八ちゝとこんろけて下ゲるんごく下いく
ものをひろつさコレそとおいてがわところくぽを入きと
探くんや下ドレくヤア小刹ごるく下ヲトひそろふく。ナニト
天ゲさ多へろつぽど素ぐらいてゆるどやア移ぢ。宝て
ふ自由ごろゝとか接るさろさものを。無是さるも
おきのとくごろさ紙くいろそ。何で是味のので一盃

やろうつ下ツリヤ寿妙頂礼往来ぽ。さゆやrr
かゝくねうちぽそ紙やせろうトゆくれるて俳田乃
蔵たぶむゝ〳〵みゝまのむゝ紙ゆるる山要ぽ
といごせ一ぽるりとひつそと。

其むゝ〳〵ぢるゝ紙今ゆこやみ山
蜈虹の星て舟ゝるゝ〳〵抜
えるふ石山寺の観世音紙あゝみて
あゝたるる俳の利生仰ぐるり
さくもあゝそのの要いゝ山



浜田の町の友例よ。茶屋酒屋郭をあるくべで。吸ーとろる
女の数ノ〜あるのさこ五ツおたいうみ。ちまちまるきん
うのる。名あの切ノ汁よ。鱧の吸ものに紅のいさ〜身わ
ござりまんぽ。あめとこるなく〜ほんさん今のと義〜
茶ノ〜稼ぐ〜ノ。うるれとちゃれやうアイ。ぼんなのセ〜ト
らゃ面さる。ノ。ろんあひようでござりまと。ぽ酒なと
ちゃをの女
あげりるさこんうる。さけも食ふ〜飯も喜やせう。
まんでもうるれとあり。さけ出しるせ〜でーて外あ

何のがある。ノ。ちぐさ汁よ。ぽ。ぽ。ぽ

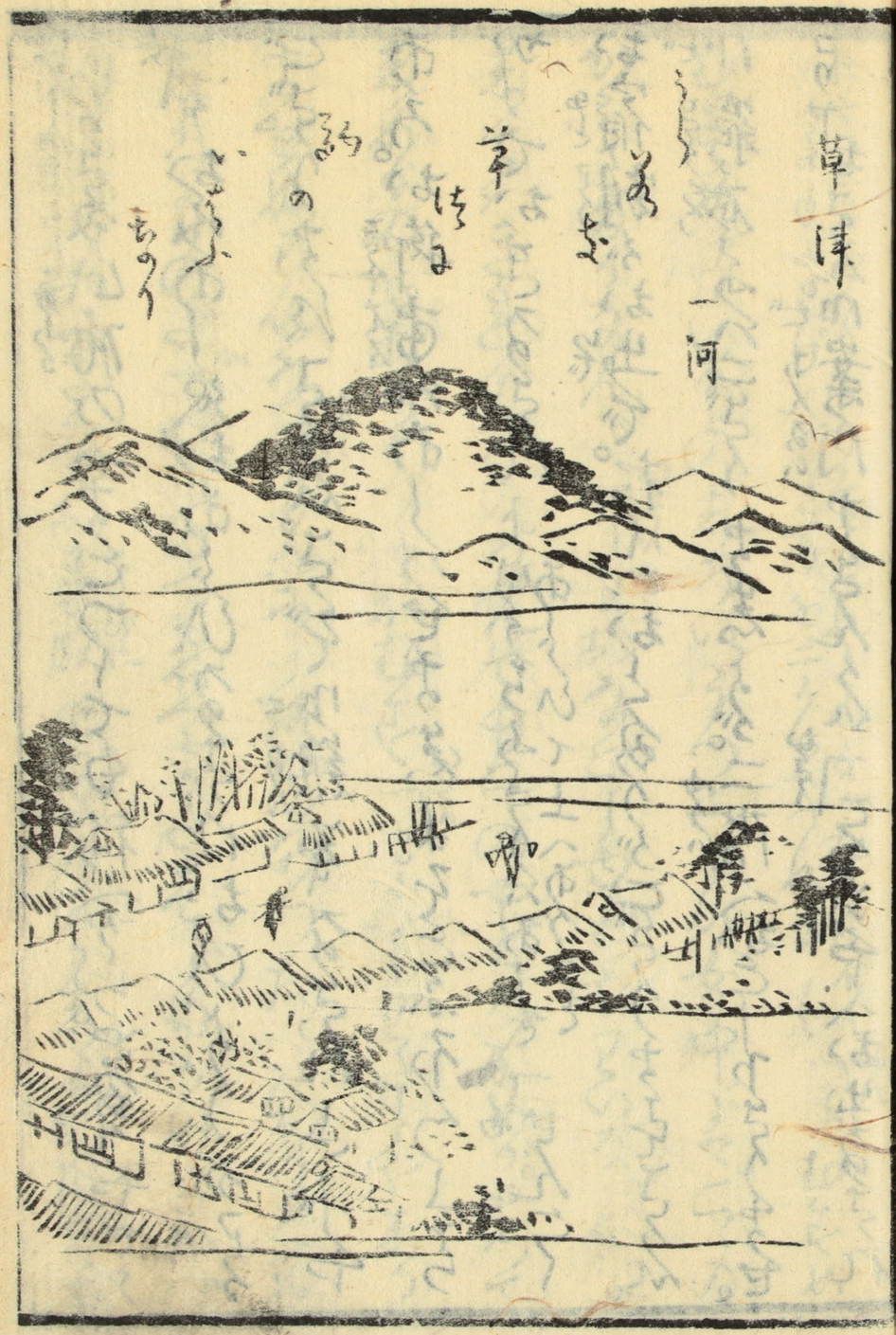
さんイヤくさいせいふ坂くまくさ屋ざる薩町彩道乃
外科医者よんせくら。ちくあくあうで膏薬が張おこれ
とぞくでとぞいふぞろうふべへくこまいうぞぐ。さくせうぞを
ワさくれて来やァきあくーぞ。ぬつくまつくこきやまくを
いのゼトけいいろくさくるもらいでめーもうあ番ぺやァこまで
さくくく

「そんぶつて稼ぎ」まちねくがコリヤ大変な目ふ
あいせるぶハどうしてもらようろう「下」おりくと
そんうういのぶよ中をあ〜ためてこんぶ
いふ「いあくやうんぶてこいしもさんさいくら
だ稼「ぎ」ないと百七十文でどうりまて「使」ってあるこぶ
稼くトぶつくぶとをいひるぶんぶちあ〜て
こてをちいるふをちちあ〜く
拾ひあのせうろうとてひどる徐
とてしいよくふまうひ子のれ

かくて両いよく潘ちろて桐油とそわし。
背ナでもこうるだろうふ方云も晒蔵もちば
こてぶうやく第岸の姥が帰屋ふぞいろうけ。
「ちなこいりろのされ。名おのうたぶりちあぶらん
ろうる「陰」いあくまーいぶ面いいつあぶるちらのちろ
「根」ヒヨツコシてのふくうちいふまはぶふをんぶ出る
ろのつこら止ちまちよろんぶあるのさぶこんどろうちやへ
ちこてるのさるちらまちらんがひなぶ中の両て曲川へ

大あら。中山屋のら宇山あるのの砂川田安村ゆ。
生ん那とまうまし〜さらん蕎宿へおとるうるさう
まうせ川ゃ川ゃどまうこさとろく〜ツリヤァそんざだん
くるこせて一ぱさて方ハ駕ヤさそへとヤまん。
とふぞ出宿をお那ひナまさ一ぱ一ちゃ宿
ゃあうまに一ぱさよぞもござうまうゃそうちゃへ
おさるのされても。川まで一おさ〜合ゃござうまさと
さうんぱさこうさん隨うん素離でぱうおさごも安いさ

よまさよ。何どやあうとあるまて〜ゆされて宿を
ぱ後ごさうんぱ。おまよ入ゆまさらい那ひゃまさと
ぱあくそふいふなら。マアこんてうらのとまゃせう
トゆど月ゃさるたてくあくるるくるのまるくを
ぱうばまごるとうのぱどゃといるくのまるいまと
ぱうまそござうおとゆ。サアおまうるうまうゃせ
ボナトほたまん。氣養ぱ背ぱごうてんぞゃおさまら
行人内ごの一ゃあうまさ方ハおうくまうさるぱこんさ
まうづまさ一さよるうどんぶんおさまうゃん。



ひとこゝろ八五十や百のお客がいさ〳〵やそとさうん
ポイヤおあくそんいろてもナア　ほほさんがらうこう出入
半兵衛くせ「ハテ四ちらのぐる　そとろ　ぐんせうらなと
玄冥うらうるとぽ　徐子　ふ　出遠入ハ出来ったに
ちらうるト　四内ちぶうんのもはけさらさうの女　毛三　そるのる
四思案るのさうどとどそろくもとまうでるんういる
トひきぐうをれて　張　ちうちんぐふでもらはもどポよ
るのらあるるこからちをとめるこれトまとわハうこを

「いろさる山俺のふまどつーでも行くらっ。さあつやさう」
「女サア」おみあーゑもあらひるのされ。もひらうがるる
ござりまんさろんっざでは雑巾をのされさどや
あろっ。お御まいあらっせまっ。よそこふろつっさら
かーておきろのされト山うちふろうはあーを下へ出せんこて
お宿割ぶお出でっ。だくいあらるあうぶござりまさそさろん。
「ど」窮屈ふんござりまもろうぶ。二階へおこーちさうもせ。
コリヤ。もさんぴ案内やさんろん「こちらやへお出るのされ
ト十二三才ばかりのうそうとれさふ女がなどとぶん「張」
くるめよさげしふうをニろくくれもく「引」おさめ
むさめ。アノいろのもろいうつっこんん女中さっこのの
かーさるあうるんぶ。「仕」おろるどーもまやこのろのふ
もっそんさるふどのるんでもこのやどろくめっぶっこて
もめるのであろっ。ノウおむさて「ヨホーーーこてやもろ
ちせぬこんるん「るんふ」ふーん。あらろたぶハもうまれ
もろりのぶ「おーのつるんっぶ。さそでめりけさいト
けうちトようてのーもさろて「さぶでお茶」でござりまもよ。お陽気も

遣ひらござりまそと。昭月へごろうゆらおん天ぐ
ござりまそんよ。まつ川ハとの外の大あぐく
ござりまたさろん。昭後日るくでハあたまろん。
さんとお昭月ハ矢ぐの鏡濃ハ懐ぬあふ礼で。
とさこいいづま世話ゆ紀よまつりまとさろい。
お日秋るのらは糸清るされお借いこまるよ
といる陽そたハぞのぞ紀くやせう一ヶ月おふろく
おめしのさまとトくくく

[illegible]「おつめやく」[illegible]
方をたうあふうけてたうり田くぼ[illegible]
うびとじめとうらぞくーそ[illegible]
[illegible]ア小八
[illegible]入ろ[illegible]「今[illegible]ふいろて笑てねさ。おめへ
のぐスかの女めといちやはのてねる下ぞんでも
その亭主めがぱきんでけうるやうぐ。業たうな
「そふさ。今小ちんるめが来さらきいさらぐてあへ
女房がうのんそうぐうぐふ。るんてもうあり めを。
おそろのうてねるふ遠ひいろ移くと来さはて白眼で

おぬさ「[illegible]うらもうておうつし。今ふおいろがせどた
めふ鳥をあうせそうんせもうくらぐマア湯ふ入くく
来さうート[illegible]
[illegible]「コウ女中。ナルトおめへふたるがあるが。湯ふ
そうと来てこ[illegible]移くう「ホーーおありがとふぐうう
うそ「イヤーぐもうぐんーぐやア移くぐんとうオリ
「[illegible]の西ハ[illegible]さんがあうきまそそのんな
ふへぐけんりるる「ハテそれでうあさぐおめへ[illegible]と

[illegible]ぐるゝ。コノ畜生めトおもいつめると。女はさ[illegible]
[illegible]形ぐやうまくいいことばかある。おゝこへ矣[illegible]
ハやんとゆらく。[illegible]形がおのいふをつまていふといふこと
うらそとでワうちが[illegible]病をおこしてぼまの男
だろう。[illegible]形と一所よあつてきまりてびくり[illegible]
殘ゆうらそのはそうとかんるゝ会ハ出来めくゝ[illegible]
ヲおうやのイヤ[illegible]ひとゝやア行くゝ[illegible]
ヲアルヤアあたるゝあされでいくゝト[illegible]

おぐりこりやくおつめ。ゆのをしてあるおとこのぐ[illegible]
あうちやへいりんゝ。[illegible]ハあるとりのお休ろ[illegible]
どふやら日[illegible]りそふでござりやすとハやんへお伝
いしやのそよイヤ[illegible]この男が[illegible]非[illegible]ゝたゞて
ねまそうら一さよるらマアあるゝとお休トのひ[illegible]
うそうおりそのくゝ[illegible]ゝうづうりのどうそのまく
ゝ[illegible]ゝ出る[illegible]紫おるゝおりひつさ[illegible]
そのしゝとゝゝハだうりをやつかり。ゆでもさいひあうをおこして
あとよのそうんとおりひづけてゝちゝふゝるが面の日のゝび
つうれあやふうりとゝひとゝゝりおゝてあくるゝおゝさりぐく

とれど、ふはふはとしぶとくれさえぐらめばぐらぐらがしそんぐらがいうと、
くらひーさいあさめーとこらくてくらぶごづくり病のかこーらくさるる
小八それとふたろつぐ、ふはふはをたのーもあるまさるまたるの見
だくりあくらよのとるさうんどんぐんどるぐーそきうふ人の日あうん
やくるる。ぐぐくひとまぐーくいのぐとさまぐよくるぐしぎんと
ちりひつきぐあんでもこりいのまーどくらぐぐとおちてけがをさるり
てのよめてるー おとよのてしんとそぐてめふありしるて
紙だーどのふくろめくらぐとふくまたづーそくるげおちくりしぐ
るんとくふこーのあくりを 小八 あいさくくくく 小八 ヤアく
まくくらうくてこらくられさ
ぐふるくされ こりヤ さまぐそくりてこいぬんぐるう
たるう 女 ハイりく お彩へふれたりけ お去よりいるぷップ
プップくく ヤイりく お彩へふくのどやくるんる。

ふくあたくけふ去おんくさ。おくまさるぬハぐふぐあいる
トくくもこくるけあぐりてくるれば ハ ヤあるも
おくちくれくてぶくんよあくくれくるくてある
ぐふぐるるくされまくくろ。今りあくまさるぬが 陰子 くら
おちるさまて大 猛 ぐでぐざりまくと ハ 怪我
でもまあくくろト おどろきるのぐらぐどんで出くれもせくぐで。
おくるくくるくくるくるくる

ひゝ拝ハ
耳と
ぬく

蛇
入るゝ
きく
威和亭
鬼武

おこしてもらハどざりませぬ。医者でも呼ばよやり
まをしたようなるト さるぬぐらいあるとるよ。小ハかやうく
うちふたるくしくしどざとせしとおりひの外おへとうこのあ
りさまをしどすぐ多ほかたくもつうあまあしもらどびさん
目をとるどけ。移らうまうふ
あをれたそとるうをつきるく
おいらハ大分よくなるうそどうどふ。接がへうそとさ
「アイ」とうど目ふあつさ。あいさうしく 「お腰」
とちませぬう「アイ」どふも痛んでのされまをね
「ほうもう」 背どもまづさりんど。あろ。後桃でるとたさ

るをてあけまうをよう「イヤ」そを「とうり」
友友とうんで。「ほうもう」療治紙して苦ふがいい。「小ハ」の
幼もをくどるよ。薬だるいろどとろそ医者
どの紙うんでうんるの也「さよ」なるさいこるね
近ふ小ハ背紙がるさうん「ト」医者をよひる「ハ」
ちをうう移へ目ふあうさ「小ハ」おあへうう。おいらハ
痛んめ紙をるどみうを移へ「ト」たどひよりのりく
いかをくをちどをのうちふん。がうしんやらだをらしのあをを
どんうをく人よをるもをくをを仕合あをれうをくをるうちち

下ちりそうがくるのゆしに さあびんろうどのゆのとよ 医者
あるでんをりをさしるる 公方ろうべしくきさう ちかあさち
かぶどうさじゆいる 小ハイ ろうちでどりゆとて 大たとど
うらあちるあさんさそうじゆが。先ん お稲紙ん きろよ。
ハア はいハむつうんぞくよおんせるうんばはんが。時
まぎるると。癒治がいろうて面倒でどるろんの 小イヤ
時とぞたのでハこどりゆとぬたうさ今おちうさので
どりゆと 医 ハテそのおちぬさんおんせるあんば
よいよ 小ハさあうんぺどん 敵は男が兼ぐきろぬうんの

ことでどりゆとぞ。ちうあらそとん蒲鉾をあろ
こゝゆ。かさ待て蓋て巻つてその上へちうと怪我ハ
いろゆとめよ 小ハイヤおまてうがその内がろりん。
どどのくあろう。二階く階子段をけておくといつとが
あるりのく 医 必責腰をうされたまどがそゝり
首の骨でも打おりて 小んあされ。たちちへどがるこ。
死どりのく癒治あるらおちうあ水ゆ公ハさ仕合
とうりのどや。おうんまさのどやさろん

骨継の療治いとさざへあるもの「腎の打まさ
のへぶ方を継合せて合り入まて。焼さ〻つげ
やせうう「医そまへ焼継のとでござる。藤戸松と
人間とへちぐひまと「俗人の骨のまてこのも
つげまるる稼「医つげるとも「俗不入ごろ。ふう。
合点ぐいつ稼へ「医ハテちろ俗接へ。継木をまると
おるで。と。柿の木の葉。梅でも樫でも切口を
入合せてまつうと。まづりてつ〻と。自然とつける

道理でござる「俗ハ〻〻継木をまるあへ。を時候か
あつて出来るもの。人の怪我いつるのごと
まつうふう。まを稼へめのごろ。そのアとりあへ
まつりの中をめへ「医そとぐアとうちでござるとへの
「俗イヤ〻ごふの春紙ゆけ及「医ハテそとのとを
素人でなのも。まつぬ〻をまちちとざんな「俗ナニ
ちうとざんとへるのへのとぶ。は義医者めが
「医薬医へ「古医なをいさう。ちうめ「俗ふと

大福屋
本町二丁目
一九の口上

あつぷうとうはらアーとこれいがあるぞ　トうでまくり
かれば医者さまをつがーく　そこ下へあげやくを「アイそ
ほうがうまうけ　ゆくんとさとうこぶハうそぶうとーて
てーがちがつてまつ　さてあのびさま　祈人ごう
ほんさんぞーさものぐ　拝角医者が来ふ。
おめいらざるこ　祈いうてぶんうくそまうこと
うらつまぐ　祈人トは内てーゆ　モくなあまちんぐ。
医者どのかてーうて　道まうぐさんうね
今ものる法下がうんそぞまかまぐ加持

まてこのきーておうといかてぐぐうまぐぷのんよ
うのさんまちぐぞんる　ぶふぞそまかまうやや
せうーさまうら　医者トかうくおうちぐぐぐぐ　ふくへ
ぶ者ぐでぐうまちぐぞ　ふなふ擬がうくのおう
かぐんぐのさまぐまねぐぞ　あぞこのかぐぐのまうまふ
のうまうよぶ祈祷をおうあまと「法作」ぐうくのこ
その機のかぐんーあ祈怒　祈アまのまもんぜうまあ
トーかうーぐぐぐうまり　そうゆ出　そもー山伏と
ぐきんきいーうーふいぐぐぐまゆーぶ　ぐうまふうそ

ナさとハぶ[法下]よ祈のゝ処さるゑ多ぞぷゝてこぷゝ彩んへ
布切せハすぢろゝ彩よ滑ひゝら紙ゐてゃゝらふ
いゝでゝく沢中の地口よ倣てさたんゑゝ又は殊投へ。
いらゝろでハるゑて。布ゝ紙せゑて彩ゝらうたゝゝ
買ゝゝゝ丈ぷゝ彩ゝらゝゝのぢ西さとゑゝく。ゝゝ
ゝゝと彩ゝ伏がひと彩いのゝるめのゝらゝがゝゝどゝ
寿特のゝゝゝゝぢゝぢゝぷゝぢゝぢゝゝ[小]ゝゝゝゝゝゝゝ
かゝんゝ優がゝんゝとのびてゝゝるゑゝぶ[ふれ]ホニ

実ちゝゝとでゝい真ゝゝゝゝゝゝゝゝ[法下]ぢゝぢゝゝ[法下]ぢゝぢゝゝ[小]ゝゝ
情ゝゝんぷゝんゝゝいのりぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

「ソレ」りょうしんこいイヤ、ちょうどろくかくうさ。
「ハ」「エ」てこのふぶーあへぞるぜ人をてうまんぞうまとる
「法ヤ」「イヤ」いるのぞやぞいのるもちまおずんも猿の茶番
とこんるもうよ茶のおうへかんざうぞうじろくそらー
ちうぞうまとるのぞ奏ちめが「法ヤ」「ナニ」まんまとちぞうぞ
りふ行猪かまてのらぬ猪ちふまんト思の者ニ人ちておろく
こでとぬいひのうら・二人をおりると。「コリヤヤイ。ぞふまるく
小ハうろへうてこまるうよばつちうて
「法」ふくく。とのうへるるく。「イヤ法ちうねく。

ちうぞーこト「りうけるうネをしてゆる「モこく只今
ところへ安うけあげうて
川がおれまして「ぞ」状「ぞ」行がぞまうまうまート「ちうて
ゆるまるく元をりこふうよおんまうひんでのらぬ
まうどうてゆうくのうまとーいのうまをぬうめうのぞうる
まうりけれバゆがていうてぎちうううて
この不ちうぞうるんぞのの日の九ちゆくる

うまき意の森つくうー犯ちよ
ぞうとおちちくるんぞーどうら
ゆく行奥ぞて安村川ようんまこバゆる水あて
舟ちうてるるゆ意ぞ。ちうぞうちうて続山の

建場を打たぬ。砂川ちくあり「けま」べ「イヤ
ひろふよ又川がんくるが。搗も移へかわり紙と
うんくさべそれあしてそれ川紙が居ねへのさいの川へ
さてぶすら移へ「陸アレ」川下とんがこうてある。
おいらもあそこへ紙そのふんどやア移へう「そこへさ
きうんとてア移へぷらーやせう」ト川上へ出てそわべ。
異さりのと弟ふてるくよ紙をおこまのうへよさーあげ。
うこりあしが中やどへもこと扇のあうよでるよひう。
紙だうかしく「陸」ヤアうんさうーャレあのうをうど
うらぷてうふうらざアのうめへちとあやあり
このうろく汁ざ「少」いうるうがへ「のの「落」の
うこ移ぶ。裸ようるうさーやせう「ト少」その第をうさぶうう
るれが紙弟由そのうをりあるくあのうさ。
あうまの上へさーあげ川へうるうて川上のうをうんまうべ大
ぜいのの川ぐのうさうるまあうてうもくやうさとうさうこうう。
あそ川のうべいうもとちぶひうるふやとうへどうそあうんあうくて。
ゆううう少八八ひとうけうもくあのうを「イのうそよ「コト」ヤとんぶ
川下へさぶうーるうう川上へうのうこふうくもうるううんあうま
すぶぷあつちが往来の紙場とうんくるが。肩車で
をとうらあへぞんるふあ移へとうんくるぶ。「ア」て

本清

[illegible]

[illegible]

[illegible]